

現在・未来のくらしに役立つ情報誌

総務省



MIC

Ministry of
Internal Affairs and
Communications

MIC MONTHLY MAGAZINE

10

2025 October
Vol.298

P.2 特集

広がりゆく 「社会基盤」としてのデジタル

—令和7年版情報通信白書の概要について—

MIC NEWS01

ただいま行政相談月間中!

P.12

MIC NEWS02

10月20日は「世界統計の日」

P.14

～質の高い統計とデータですべての人に変化を～

地域 DX のヒント

自治体における生成 AI の利活用

P.15

P.8 地方のかがやき

雲南市 島根県

清秋

空が清く澄み渡り、
清々しい秋を迎えるころ。

凛とした佇まいを見せる
たたら場に、何か神々しいものを
感じさせられます。

表紙の写真：菅谷たたら（雲南市）

特集

広がりゆく 「社会基盤」としてのデジタル

ー令和7年版情報通信白書の概要についてー

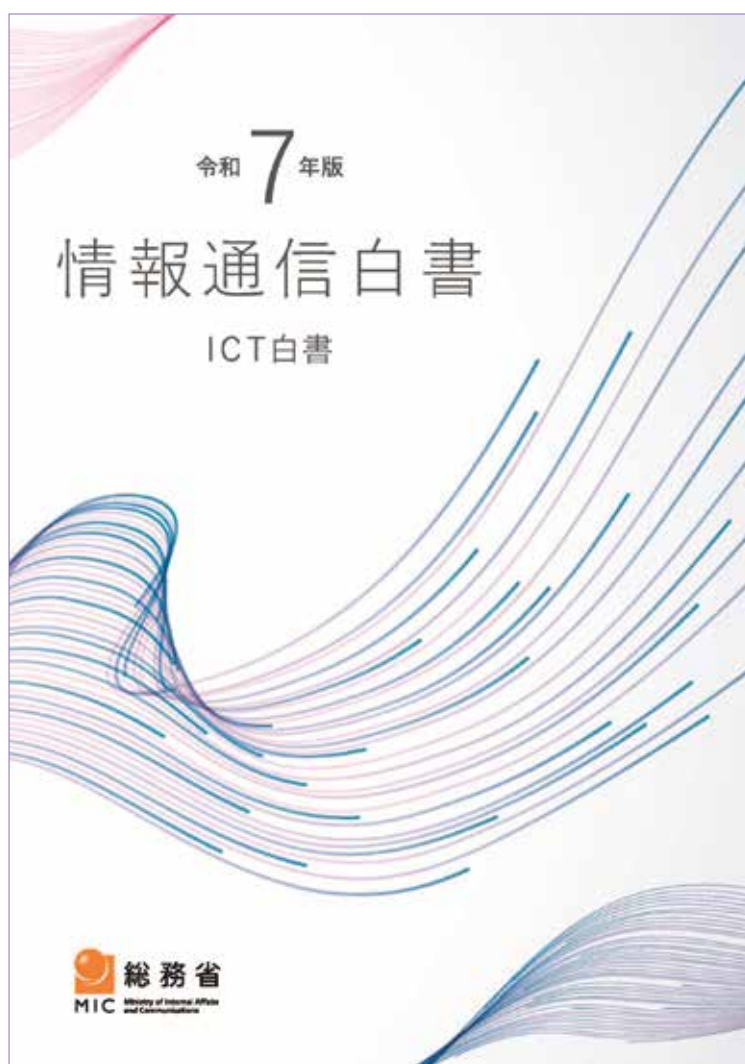
総務省は、本年7月、令和7年版情報通信白書を公表しました。

情報通信白書は昭和48年に前身の通信白書を公表して以来、今回で53回目の公表です。

本白書では、情報通信技術（ICT）分野における市場の動向やデジタル活用の現状を概観し、

情報通信政策の現状と課題、今後の方向性等を整理するとともに、

特集テーマを定め、関連するトピックを取り上げています。



電子書籍を無料で提供しています

情報通信白書電子書籍ダウンロードページ

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/e-book/index.html>



※アプリや電子書籍のダウンロードにかかるデータ通信料はご利用者の負担となります。

令和7年版情報通信白書の特集のポイント

今回の白書では、特集として、「広がりゆく『社会基盤』としてのデジタル」と題し、社会基盤的な機能を発揮しているデジタル領域の拡大や AI の爆発的な進展の動向、デジタル分野における海外事業者の台頭と我が国の状況等を概観しています。

その上で、進展するデジタルがもたらす課題や、社会課題解決に向けたデジタルの役割等を展望しています。

第1章 「社会基盤」としてのデジタルの浸透・拡大と動向

第1節 社会基盤的な機能を発揮するデジタル領域の拡大

- デジタル技術が社会に浸透し、社会生活や企業活動等において、重要・不可欠な、いわば「社会基盤」としてのデジタル領域が拡大しています。

第2節 AI の爆発的な進展の動向

- AI は爆発的に進化を続けており、今後、AI がさらに進化し、あらゆるデジタル分野に浸透・連携することで、デジタル社会を支える基盤的要素となる可能性が高まっているところです。

第3節 デジタル分野における海外事業者の台頭と我が国の現状

- 海外プラットフォーム事業者は、大きく成長し、日本でも大きな存在感を有しています。一方、グローバルデジタル市場における日本企業のシェアは全般的に低い状態にあるほか、日本のデジタル活用の進展や、デジタル産業の国際競争力の低さ等により、デジタル分野での国際収支の赤字が拡大傾向にあります。

第4節 世界情勢・自然環境・社会の変化と今後のデジタル社会の見通し

- デジタル技術が進展をとげ、社会課題の解決・軽減に向けた効果が期待できる一方で、負の影響もより一層大きくなる恐れも高まっています。更なる技術開発や利活用を推進しながらも、脅威に対応を打ち続けていくことが重要です。

第2章 進展するデジタルがもたらす課題

第1節 デジタル社会を支える信頼性のあるデジタル基盤の確保

- デジタル社会を支える強靱なデジタル基盤の確保や、デジタル分野における国際競争力向上等を通じた日本の自律性の確保・向上等の取組が重要になっています。

第2節 AI の進展に伴う新たな課題

- AI は利便をもたらす可能性がある一方、リスクも広範に及ぶ可能性があります。イノベーション促進とリスクへの対応を同時に進めることが重要です。

第3節 インターネット上の偽・誤情報等への対応

- 人々の情報収集手段において、インターネットが重要な手段となりつつある中、インターネット上の偽・誤情報や誹謗中傷等の問題も大きくなっており、国際的な動向も踏まえつつ、表現の自由に十分配慮しながら、総合的な対策を積極的に進めていく必要があります。

第4節 サイバーセキュリティ

- 世界情勢の不安定化・緊迫化等も背景にセキュリティリスクが拡大傾向にあります。サイバーセキュリティ確保のためには、すべての関係者による総合的な対応が重要となっています。

第3章 進展するデジタルによる社会課題解決に向けて

第1節 我が国の経済活性化・経済成長

- 日本の経済成長の観点とともに、不透明さを増す世界情勢に鑑みれば、経済安全保障の観点からも、デジタル企業の国際競争力の向上に向けた取組の推進が重要です。

第2節 地方創生

- 少子高齢化の問題は、地方においてより一層深刻な状況にあり、AI 等の技術を活用したインフラ維持管理の高度化・効率化、デジタル技術の活用による生産性の向上の必要性の高まりから、様々な取組が進められています。

第3節 激甚化する災害への対応

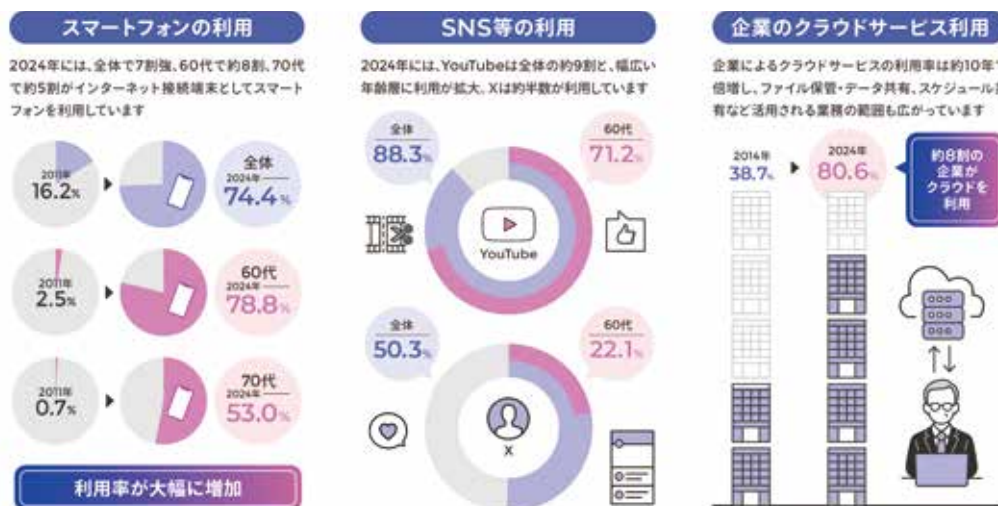
- 近年、災害は激甚化・頻発化しており、更なるデジタルインフラの強靱化が求められています。

第1章 「社会基盤」としてのデジタルの浸透・拡大と動向

第1節 社会基盤的機能を発揮するデジタル領域の拡大

▶ デジタル技術が社会に浸透し、SNS等のプラットフォームやクラウドサービス等を含め、社会生活や企業活動等において、重要・不可欠な、いわば「社会基盤」としてのデジタル領域が拡大する中、人々の情報収集、コミュニケーション、消費行動や企業の経済活動に大きな変化が生じつつあります。

スマートフォン・SNS・クラウドサービスの利用の浸透・拡大

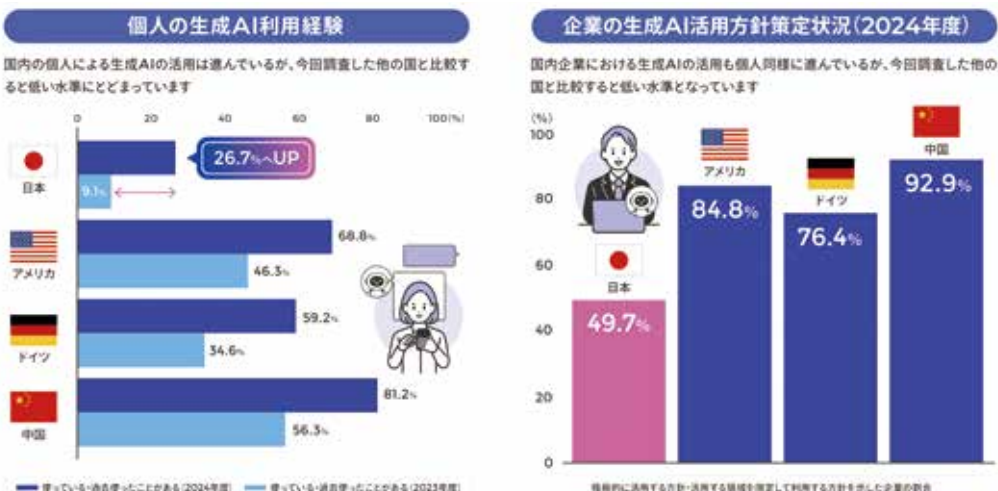


人々の情報収集手段においてもインターネットが重要に



第2節 AIの爆発的な進展の動向

▶ 大規模言語モデルは、巨大な投資が可能な海外ビッグテック企業等が進展を牽引しています。
▶ 性能向上をもたらす新たな技術が進展し、開発競争が激化しています。
▶ このような流れの中、AI分野での日本の存在感は世界的にみると必ずしも高いとはいえないものの、国内企業・組織によるモデル開発等の技術開発の動きも盛んに行われています。
▶ 個人・企業における生成AIの利用状況について、アンケート調査を行ったところ、日本でも、生成AIの利用が拡大している一方、今回調査した他の国と比較すると低い水準にとどまっています。

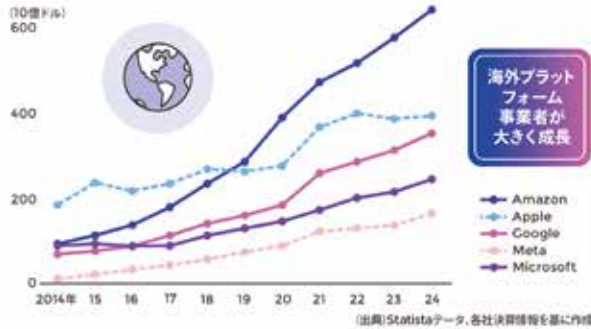


第3節 デジタル分野における海外事業者の台頭と我が国の現状

- ▶ 海外プラットフォーム事業者は、デジタル市場で発現しやすい特性や収集したデータ・莫大な収益を活用して大きく成長し、日本でも大きな存在感を有しています。
- ▶ グローバルデジタル市場における日本企業のシェアは全般的に低い状態にあるほか、社会生活・企業活動における日本のデジタル活用の進展や、デジタル産業の国際競争力の低さ等により、デジタル分野での国際収支の赤字が拡大傾向にあります。

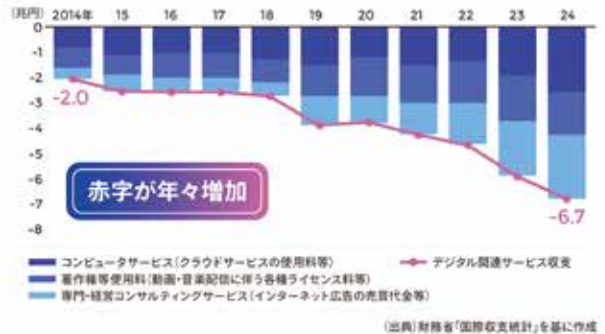
海外事業者の売上高の推移

海外のプラットフォーム事業者は、収集したデータ等を活用し大きく成長しており、国内でも存在感を強めています



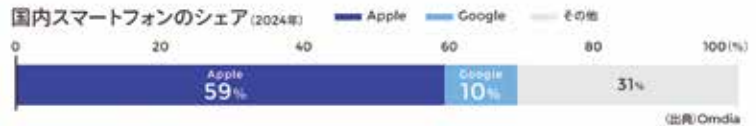
デジタル関連サービス収支の推移

日本において、デジタル化が進展する一方、デジタル関連サービスの収支の赤字が近年拡大傾向となっています



デジタル市場でのシェア

国内のスマートフォン市場ではAppleが59%、Googleが10%と、海外事業者が高いシェアを占めています



第4節 世界情勢・自然環境・社会の変化と今後のデジタル社会の見通し

- ▶ 近年、世界情勢は、地政学的な緊張の高まりや経済の不安定化など大きく変動しており、異常気象の発生増加や災害の激甚化など、自然環境も変化を続けています。
- ▶ 日本では、少子高齢化による人手不足が年々深刻化しており、特に地方でより顕著に影響が出ています。
- ▶ AIやロボットをはじめとするデジタル技術が進展し、浸透・活用されることにより、社会課題の解決・軽減に向けた効果も期待できる一方で、その負の影響もより一層大きくなる恐れも高まっています。
- ▶ さらなる技術開発や利活用を推進しながらも、並行してデジタル技術や利用の進展により拡大を招く恐れがある脅威に対応を打ち続けていくことが重要です。

国内外を取り巻く環境の変化例

世界情勢の不透明性の拡大

自然環境変化に伴う災害激甚化

日本の少子高齢化

デジタル分野の課題

1 信頼性のあるデジタル基盤の確保



強靭なデジタル基盤の確保やデジタル分野での競争力向上等を通じた自律性の確保

2 AIの進展に伴う新たな課題



AIのリスク管理とイノベーションの両立や、AI技術の推進、AIを活用した産業の進展、社会生活におけるAI活用などの一層の推進

3 インターネット上の偽・誤情報等への対応



制度的対応や対策技術の開発支援、利用者のICTリテラシー向上等の総合的な対策

4 サイバーセキュリティへの対応



政府の対応、官民での連携、国際連携、技術的対応、国民リテラシー向上等の総合的な対応



日本の主要な社会課題の解決にもデジタル活用が重要

第2章 進展するデジタルがもたらす課題

第1節 デジタル社会を支える信頼性のあるデジタル基盤の確保

- ▶ デジタル技術の活用や社会基盤としてのデジタル領域の拡大等に伴う、通信・計算資源・電力等の需要の増大や災害リスクに対応した、デジタル社会を支えるデジタル基盤の整備の必要性が増しています。
- ▶ 政府としては、データセンター・海底ケーブルの地方分散、NTN（Non-Terrestrial Network: 非地上系ネットワーク）の活用、デジタル基盤における脱炭素化などに向けた取組を進めています。
- ▶ 重要なデジタルサービス・インフラ等においては、日本の自律性の確保・向上が重要な課題です。そのため、経済安全保障推進法等による安定的な供給への対策やデジタル分野における日本の競争力強化の取組も進められています。

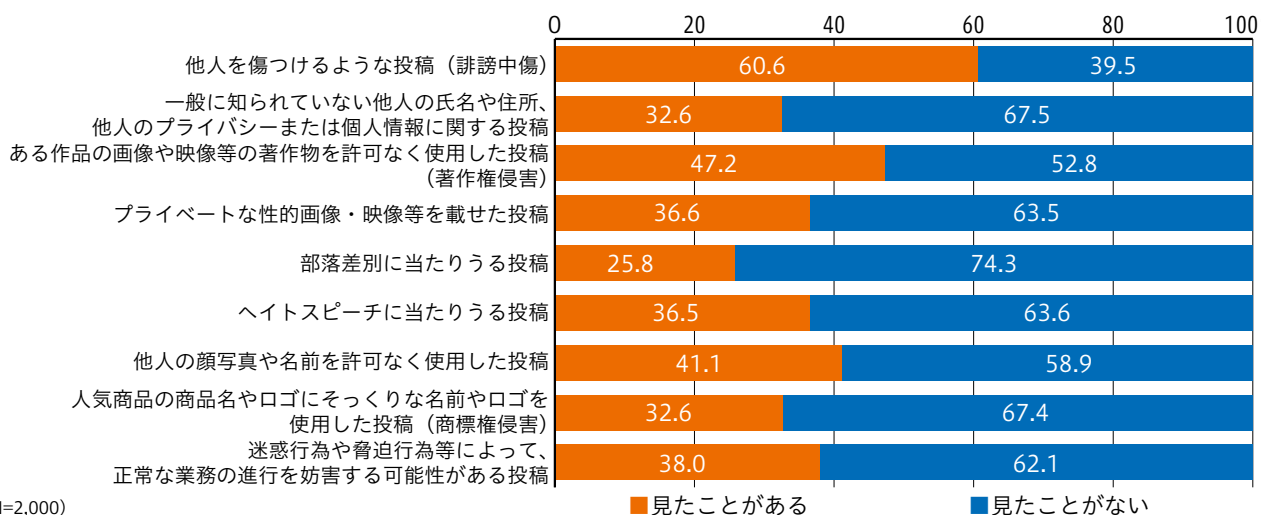
第2節 AI の進展に伴う新たな課題

- ▶ AI は我々の社会生活・経済に関して利便をもたらす可能性がある一方、リスクも広範に及ぶ可能性があり、AI をめぐる技術革新に当たっては、イノベーション促進とリスクへの対応を同時に進めることが重要です。
- ▶ 国内のルール形成に加え、2023 年に開催された G7 広島サミットにおいて 生成 AI に関する国際的なガバナンスについて議論を行うことを目的とした「広島 AI プロセス」を立ち上げることとなり、この一連の流れの下、様々な国際連携の取組も行われています。

第3節 インターネット上の偽・誤情報等への対応

- ▶ インターネットが人々の重要な情報収集手段となりつつある中、インターネット上の偽・誤情報や誹謗中傷等の他人の権利を侵害する情報の流通・拡散などに代表されるデジタル空間の情報流通をめぐる問題も大きくなっています。
- ▶ アンケート調査によると、インターネット上で他人を傷つけるような投稿（誹謗中傷）の目撃経験は、2024 年調査では回答者の 60.6% が「見たことがある」と回答しています。
- ▶ こうした問題の対応にあたって、制度的対応、対策技術の開発やその支援、利用者の ICT リテラシー向上といった総合的な対策が取り組まれています。

違法・有害情報に関する投稿の目撃経験（2024 年 10 月）



出典：総務省「デジタル空間における情報流通の諸課題への対処に関する検討会（第2回）資料 2-1」

第4節 サイバーセキュリティ

- ▶ サイバー攻撃のリスクは、年々拡大傾向にあります。また、ひとたびサイバーインシデントにより被害を受けた際の規模・範囲もますます拡大すると想定され、安全保障上も懸念が大きくなっています。
- ▶ こうした情勢に対処するため、サイバー安全保障分野での対応能力を欧米主要国と同等以上に向上させるべく、2025 年の第 217 回国会（常会）に「重要電子計算機に対する不正な行為による被害の防止に関する法律」および「重要電子計算機に対する不正な行為による被害の防止に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」の両法案が提出され、原案修正の上、2025 年 5 月に可決・成立しました。

第3章 進展するデジタルによる社会課題解決に向けて

第1節 我が国の経済活性化・経済成長

- ▶ 今後、AI やロボットをはじめとするデジタル技術が更なる進展をとげ、社会に浸透・活用されることで、日本において、労働力不足の解消、生産性向上や競争力強化による経済活性化が期待されます。
- ▶ 自らの強みを生かしつつデジタルにより更に新たな付加価値をもたらすイノベーションに取り組むことも、引き続き重要です。
- ▶ また、デジタル分野での競争力向上に向けた取組も重要な課題です。デジタル分野の重要なサービス・インフラ等における自律性確保が重要な課題であることを踏まえれば、強みが生かせる形でアプローチするとともに、次のデジタル基盤・サービスのカギを握る分野で、日本の国際競争力を確保することが望まれます。
- ▶ 例えば、AI については小規模 LLM の開発、次世代通信分野では NTT が提唱する IOWN 構想などの取組が進められています。

第2節 地方創生

- ▶ 地方では少子高齢化や人口減少が深刻化しており、地方経済の疲弊、地域・社会インフラの維持等に対する対策は、喫緊の課題です。デジタル・新技術の徹底活用により、地方の生活環境の維持・改善や、地域経済の活性化等に向けた取組の推進が重要となっています。
- ▶ インフラの維持管理の観点では、例えば、鉄道の巡視業務において AI を活用する取組があります。
- ▶ 公共・準公共サービスの観点では、郵便局の各種サービスを一元的に提供する「コミュニティ・ハブ」として、オンライン診療・服薬指導や、地方公共団体の窓口手続等のサービスを提供する取組があります。
- ▶ 地域経済の活性化の観点では、ドローンや AI を用いたスマート農業の導入などが進められています。

「地域鉄道事業者における Wi-Fi 6E・AI 等を活用した共同創出型 鉄道デジタルイノベーション事業」の概要



出典：総務省（2025）「地域鉄道事業者における Wi-Fi 6E・AI 等を活用した 共同創出型鉄道デジタルイノベーションの実現 成果報告書」

第3節 激甚化する災害への対応

- ▶ 近年、災害は激甚化及び頻発化しており、今までより高度な災害対策を講じることが重要になる中、デジタル技術の活用による防災・減災は大きな効果をもたらすと期待されています。
- ▶ 防災・減災にデジタル技術を活用するためには、強靱なデジタルインフラの存在が必要となる中、放送ネットワークや通信ネットワークの強靱化に関する取組が進められています。
- ▶ データセンターや海底ケーブルの地方分散の推進等も重要課題となっており、対応が進められています。



雲南市は、ヤマタノオロチ神話にまつわる伝承地が多数残る神話のまち。市内には15の神楽団があり、神話を題材にした出雲神楽を保存・継承している。須我神社に近い「神楽の宿」では、毎年7月に夜神楽大会を開催。

神話 のまち



中国山地は、かつては製鉄業で栄え、江戸時代には全国約8割の鉄が作られていた。「菅谷たたら山内」は、約170年間操業された高殿（製鉄炉がある建屋）が当時の姿で残され、国の重要有形文化財に指定されている。

たたら のまち



斐伊川堤防桜並木は、日本桜名所100選に選定された中国地方随一の名所。毎年3月下旬から4月上旬には見ごろとなり、約2 km、800本の桜のトンネルが楽しめる。開花期間中はライトアップが実施される。

さくら のまち



神話が息づく歴史と文化、
人と自然の調和をめざすまち

雲南市

島根県



Unnan-City Profile



雲南市は、県都松江市と出雲市の南に隣接し、南部は広島県に接している。市内には、ヤマタノオロチ伝説で知られる斐伊川が流れる。平成16年に市制が施行、令和6年に20周年を迎えた。

人口：33,980人（令和7年7月末現在）
面積：553.18 km²
URL：<https://www.city.unnan.shimane.jp/>



島 根県東部の山間地域に位置する雲南市は、神話が根付き、自然と暮らしが調和するまちです。市内中央を流れる斐伊川流域は、古事記や日本書紀にも登場するヤマタノオロチ伝説の舞台であり、数多くの遺跡や古墳が今も残されています。また、かつて栄えた「たたら製鉄」で切り崩された砂鉄鉱山跡は、広大な棚田へと生まれ変わり、特色ある里山文化を育んできました。四季折々の自然の中、伝統と文化を大切にしながら暮らす人々の営みが、雲

や さば ず し 焼き鯖寿司

脂が乗った焼き鯖の身をほぐし、ちらし寿司に混ぜ込んだ郷土料理。煮付けたシイタケやタケノコ、木の芽など具だくさんで、ほんのり甘い優しい味わい。





“一両列車の聖地”木次線

JR木次線では多くの列車が一両編成で運行しており、四季折々の風景を一両列車に乗ってのんびりと楽しむことができる。



加茂岩倉遺跡

一カ所の出土としては全国最多となる39の銅鐸が出土。ガイダンス施設では銅鐸のレプリカなどが展示されている。



須我神社

スサノオノミコトとイナタヒメが築いたとされる日本初之宮で、和歌発祥の地ともいわれる。縁結びや子授けなどのご利益があるとされる。



龍頭が滝

約40mの高さからしぶきを飛び散らせながら流れ落ちる滝は、まさにうねりをあげて昇天する龍のよう。日本の滝百選に選定。



いるま花田植え

毎年5月に開催される、入間地区の伝統行事。早乙女の衣装を着た女性たちが、田植え唄に合わせて苗を手植えする。フォトコンテストも人気になっている。



プレミアムつや姫 たたら焰米

市内で収穫された「つや姫」から選別した最高級のブランド米。大粒で張りや弾力があり、噛めば噛むほど旨味が広がる。

南市の魅力となっています。

一方、少子高齢化は急激に進み、高齢化率は全国平均の25年先を行く水準にあります。課題解決に向けて、平成31年度から市民の挑戦を応援するプログラム「雲南ソーシャルチャレンジ」を開始。さらに、市民が主体となって「2025-2034 第3次雲南市総合計画」を策定するなど、地域全体で未来への挑戦を続けています。こうした取組は、持続可能な地域社会のモデルとして、全国からも注目されています。

焼き鯖

鯖を丸ごと一匹串に刺して焼き上げた名物グルメ。市内の鮮魚店などで、焼きたてを購入できる。



木次乳業有限会社 パスチャライズ牛乳

1978年から販売しているパスチャライズ牛乳（低温殺菌牛乳）。幼稚園や小・中学校の給食などにも導入され、地元の人々にも親しまれている。



市民の力で拓く、チャレンジのまち

雲南市は一貫して、“人づくり”に力を注いできました。幼児から高校生まで一貫したキャリア教育を行う「子どもチャレンジ」、地域の未来を担う人材を育む「若者チャレンジ」、住民が主体となって地域自主組織を結成する「大人チャレンジ」、そして市内外の企業と連携する「企業チャレンジ」と、4つのプログラムからなる「雲南ソーシャルチャレンジ」を推進。子どもも大人も挑戦できる取組が成果を上げ、近年はUターンやIターンによる移住者が増加しています。

雲南市長 **石飛 厚志**





市役所の1階には「空き家バンク」紹介コーナーを設置。最新の情報は市のホームページで公開している。

雲南市の施策は、情報誌の移住特集などで取り上げられることも多い。

雲南市の取組



「空き家すごろく」などユニークな取組も！ 定住促進・空き家対策

雲 南市は月刊誌の「住みたい田舎」ベストランキングで部門別全国ナンバーワンに選ばれるなど、移住支援策の成果が表れています。中でも特徴的なのが、無料で参加できる1泊2日の「雲南つながる体験プログラム」。先輩移住者を訪問したり、保育園や学校を見学したりと、個別の希望に応じたプランで飾らない暮らしを伝え、移住後のミスマッチ

防止にも効果をあげています。

急増する空き家対策も、積極的です。遊びながら学べる「うんなん空き家すごろく」を制作し、市報で配布。空き家流通コーディネーターの担当者は、「家の将来について、家族で話し合うきっかけにしたい」と話します。また約50軒の情報を掲載した「空き家バンク」も運営しています。

あらためて平和について考えたい「雲南市 永井隆記念館」

原子爆弾によって重傷を負いながらも被爆者救済に尽力し、「長崎の鐘」「この子を残して」などを著して世界平和を訴え続けた永井隆博士。雲南市は、博士が小学校まで過ごした故郷。記念館には、博士直筆の絵手紙や葉書、絵画など

約300点が展示されているほか、関連書籍を揃えた図書室もあります。中庭には、博士が晩年に暮らした2畳1間の「にょこどう如己堂」の複製を設置。かたわらには博士所縁のバラが咲き、平和への願いを今に伝えています。



全国各地からの寄付で建てられた「平和の鐘」のモニュメント。



令和3年にリニューアル。博士の生涯を知り、人間性にふれることができる。



記念館から約3km先の場所に、博士が小学校まで暮らした家が残されている。



雲南市
の取組

2

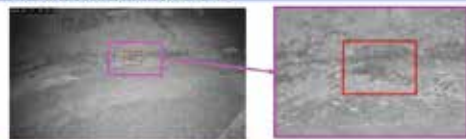
鳥獣被害対策

イノシシの目見回りを低コスト通信とAIが代行

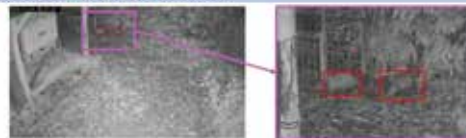


実証事業は市内中央部の三刀屋町飯石地区で実施。住民の協力を得て4か所にカメラを設置し、うち2か所を監視した。

イノシシの検出成功（重谷屋家蔵）



タヌキの検出成功（ライスセンター）



遠隔監視中の画像。実験中に精度が上がり、イノシシなら約50%の確率で判別可能となった。



対象の住民に提供された「うなんんけモナビ」。鳥獣の目撃情報を共有・可視化し、対策につなげていく。

森 林が多くを占める雲南市では、鳥獣被害が深刻です。そこで、市は令和5年度「地域デジタル基盤活用推進事業（実証事業）」に参加しました。

この取組では、まずイノシシなどが出没する場所にカメラや罠を設置して遠隔監視を行います。これにより、従来の人による見回りの負担を低減することができます。撮影された画像はAIで解析して種別や数を自動判別し、生息範囲や行動範囲の予測に役立てられます。また、鳥獣被害対策アプリ「うなんんけモナビ」を活用して、猟師や住民の目撃情報を効率的に収集、リアルタイムに共有できるようにしています。



鳥獣対策に日々奮闘している林業・鳥獣対策グループの職員。

きらきら！ いま！
雲南市の暮らし

人と人のつながり、
物とのつながりを
大切にするまちです



地域おこし協力隊 アドバイザー
三瓶裕美さん

地域おこし協力隊として移住し、市内在住14年です。今は、体づくりと農ある暮らしをテーマに起業した「つちのと舎」を軸足に、小学校のダンス講師など多業を営んでいます。地域おこし協力隊のサポートにも取り組み、総務省のサポートデスク相談員や島根県のネットワークの代表、雲南市のアドバイザーを務め、地域・隊員・自治体の三方よしを目指しています。



大輪の花火のように並べられた「桜の塩漬け」。今年、三瓶さんと地元の皆さんで、加工所「桜むすび舎」を新設。製造を開始した。



雲南市民の日常に溶け込んでいる水次線の列車と三瓶さん（左）。

ただいま行政相談月間中!

総務省行政相談センター

まぐみみ

どこに相談すればいいか、わからない—
そんな時はひとりで抱えこまず、
行政相談へ。年金、子育て、被災者支援…
どんなお悩みも一緒に考えます

お困りごとに
「聞く耳」
あります!

秘密厳守
相談無料

医療保険・年金のこと
子育てのこと
被災者支援のこと
雇用のこと

行政相談マスコット
キクーン

インターネットで.....

メールフォームからご
相談できます。



行政相談受付

検索

電話で.....

最寄りの総務省行政相談センター
「まぐみみ」につながります。

0570-090110

(全国共通番号)

行政相談委員への相談...

行政相談委員オフィ
シャルウェブサイトで
お近くの相談所を探
せます。



国・地方共通相談チャット
ボット・Govbot (ガボット)

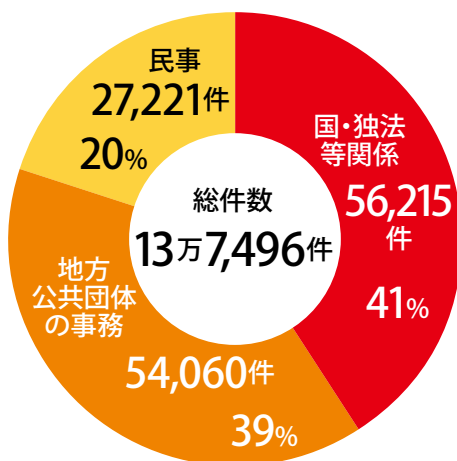
24時間365日、疑問が
あればインターネット
からいつでも利用でき
て、すぐに答えが分か
ります。



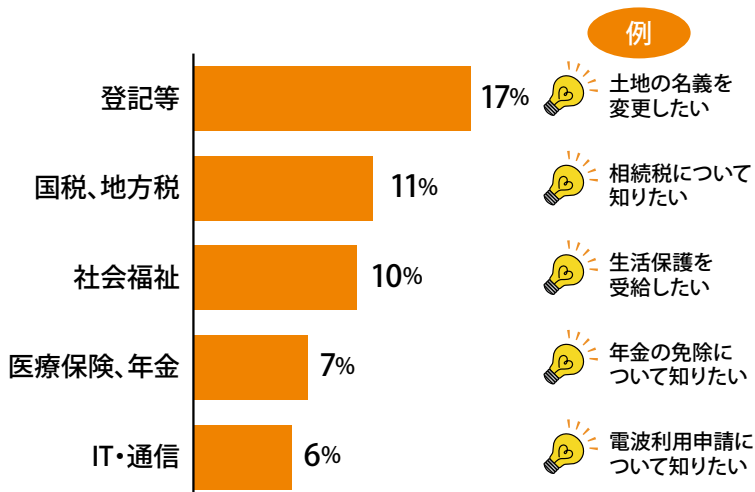
行政相談は、担当行政機関とは異なる立場から、行政などへの苦情や意見、要望を受け、その解決や実現を促進するとともに、行政の制度や運営の改善に活かす仕組みです。

「どこに相談したらよいか分からない」、「役所に申請したが、手続が進まない」など、まずはご相談ください。難しい手続は不要でご相談いただけます。

令和6年度受付件数



多く寄せられるご相談



(注) 割合は、令和6年度の苦情・要望陳情及び照会事案の合計に占める割合

行政相談月間中の活動

行政相談月間中には、国の行政機関、地方公共団体、各種専門家等が一か所で様々な相談に対応する一日合同行政相談所を開催します。

また、各地で行政相談委員が相談所を開設したり、パネル展などの広報活動を行います。

ワンストップで相談できる一日合同行政相談所

「ワンストップ相談ですっきり!」



各地での広報活動



一日合同行政相談所の開設日程などについては
こちらからご覧ください。



10月20日は「世界統計の日」 ～質の高い統計とデータですべての人に変化を～

2025年10月20日は、国連が設けた5年に1度の「世界統計の日」です。公的統計への理解を深めるため啓発活動を世界中で行うこととされており、2010年の制定以来、2025年は4回目となります。

総務省では、2025年の「世界統計の日」に係る活動として、全国各地で学生等を対象に各種講演活動を行っています。また、11月には、国連統計委員会の下に置かれている専門家会合が北九州市において開催される予定です。

特に、12月には、国内外の統計関係者を招待の上、国連統計部からの基調講演や、国・地方自治体による統計・データ利活用に係る取組の講演を行う「世界統計の日フォーラム 2025」を開催予定です。本フォーラムは、Web 配信を併せて予定しています。

フォーラムのWeb 配信等を含め、世界統計の日に関する我が国での活動については、総務省 Web サイトをぜひご覧ください。



講演活動の様子

「世界統計の日」Webサイト



「世界統計の日」ポスター

世界統計の日フォーラム2025 プログラム

- 日時 2025年12月4日(木) 13:30～17:10
- 基調講演(国連統計部関係者予定)+ディスカッション
- プレゼンテーション

東京都: 2050 東京戦略におけるデータ利活用の取組～東京データプラットフォームなど～

神戸市: 神戸市における EBPM の実践～日本の地方行政におけるビッグデータ活用～

海士町: 可視化がつなぐ共通理解～効果的な意思決定を促す地域データ活用～

農林水産省: 農林水産省における統計データ分析支援について～データの力で農林水産業を飛躍させる～

※プログラムは掲載時点のものです。Web配信の視聴を含め、詳細は上記のWebサイトにおいて随時掲載・更新します。



自治体における生成 AI の利活用

地域 DX のヒント第 19 回は、自治体における生成 AI の利活用について解説します。

自治体において人手不足等が深刻化の中で、自治体の業務効率化や行政サービスの質の向上を図るためには、仕事のやり方そのものを大きく変革していく取組が不可欠です。そのための有効なツールの 1 つとして、生成 AI の利活用が注目されています。

生成 AI は知識やスキルを代替する作業が可能であり、業務効率化等が期待されています。一方で、

令和 6 年 12 月 31 日時点で、生成 AI を導入済みの団体は、都道府県で 87.2%、指定都市で 90.0%、その他の市区町村で 29.9% となり、自治体の導入状況には、ばらつきがあります。

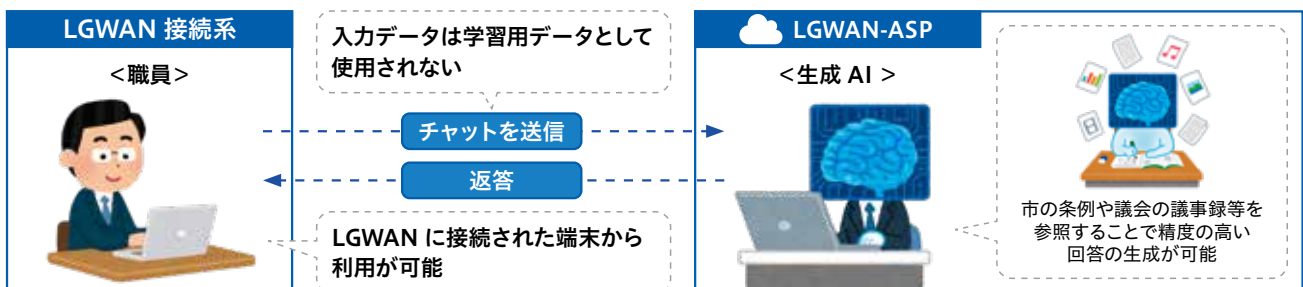
総務省では、令和 7 年 1 月から 7 月にかけて「自治体における AI の利用に関するワーキンググループ」（座長：須藤修 中央大学国際情報学部教授）を開催し、報告書を取りまとめました。

今後、報告書の内容を「自治体における AI 活用・導入ガイドブッ

ク」に盛り込んでまいります。あわせて、自治体が安心して生成 AI を利用できる環境を醸成するため、生成 AI の利用方法や利用における留意事項等を盛り込んだ、自治体が作成するガイドラインのひな形を提示する予定です。

また、自治体における生成 AI の導入事例を掲載している「自治体 DX 推進参考事例集」の内容を拡充してまいります。

これらの取組を通じて、自治体における生成 AI の利活用を後押ししてまいります。



イメージ図：「自治体 DX 推進参考事例集」中の「LGWAN 上で利用できる生成 AI アプリを民間企業と共同開発し、本格運用【山口県山陽小野田市】」のサービスイメージを抜粋

編集後記

editorial note

10 月号をお読みいただきありがとうございます。

今回、地方のかがやきで紹介したのは、日本書紀や古事記で様々な伝説の舞台として登場する島根県雲南市です。市内には寛政 4（1792）年から大正 10（1921）年まで製鉄を行っていた「菅谷たたら山内」があり、製鉄を行って

いた高殿などが保存され見学もできます。

雲南市では地域自主組織が多く組織されており、まちづくりに参加する方が多くいらっしゃるそうです。コウノトリが主人公の絵本のようにまとめられた「うんなんビジョン 2025-2034」は、これから 10 年の市のあり方を示す第 3

次雲南市総合計画ですが、行政機関の資料にはめずらしい可愛らしい作りで、この冊子も市民の方が作成に携わっているそうです。

末尾になりましたが、今回ご協力いただきました皆さまには心より感謝申し上げます。

（広報室 C.H）

Data Science Online Course



総務省統計局

リニューアル開講

データサイエンス・オンライン講座

社会人のための データサイエンス演習

令和7年9月30日開講

受講料無料



ゼラウズ

総務省統計局 提供

ビジネスの現場で使われるデータ分析の手法を **実践的に** 学べる講座です。



みらい

実践的に学べる講座内容

Excelや統計解析ソフトRを使った実践的なデータ分析(統計分析)の手法を学べる講座です。

Week1: データサイエンスとは

データサイエンスに必要な知識やデータ分析のサイクルを学ぶ

全 5 回

Week2: 現状を把握して課題を見つける

データの特徴や2変数間の関連性を捉える方法を学ぶ

全 6 回

Week3: 過去のデータから未来を予測してみよう

様々な変数から他の1変数を予測する方法を学ぶ

全 7 回

Week4: その差は偶然?それとも意味のある差?~結果を解釈する力を身につける~

データ間に生じる差が偶然か意味のある差かを判定する方法を学ぶ

全 8 回

Week5: ビジネスでデータサイエンスを活用するにあたって

分析結果の報告方法や、データを扱う際の注意点を学ぶ

全 5 回

演習 Week2~4において Excelの演習を実施。この他に、特別週として統計解析ソフトRの演習を学習

全 8 回

データサイエンス・オンライン講座の特徴



受講料 無料

¥0



スキマ時間でできる!
1回あたり 約10分



スマホ・タブレット受講OK



所定の基準を満たすと修了証が発行されます。

データサイエンスは、デジタル社会の基礎知識として、様々な場面で必要とされています

gacco
powered by ドコモgacco

gaccoとはすぐに役立つスキルからずっと役立つ教養まで、人生100年時代の学びが体験できるオンライン動画学習サービスです。

NTTドコモグループが提供するすぐに始めてずっと続けられる原則無料のオンライン動画学習サービスです。ビジネススキルから教養まで幅広い学びの講座をラインナップしています。

データサイエンス演習 MOOC

検索

<https://gacco.org/stat-japan2/>

